

人間教育学部 教育・心理学科

系列 (領域)	授 業 科 目 名	履修 方法	履修単位数		備 考	
			学部共通	専門科目	シラバス 掲載頁	
基礎 教育 科目	臨床心理学概論	L	2			2
	認知症援助論	L	2			4
	食べ物と健康	L	2			5
専門 教育 科目	教職論	L		2		6
	教育相談(カウンセリングを含む)の理論と方法	L		2		7
	小児保健概論	L		2		9
	日本語教育入門	L		2		11
計			6	8		
合 計			14			

シラバス参照

シラバス検索 > シラバス参照

印刷する

講義名	臨床心理学概論		
代表ナンバリングコード	00014BG02		
講義開講時期	後期	講義区分	講義
授業方法	対面授業		
単位	2		
単位区分	選		

所属名称	ナンバリングコード
共通科目 共通科目	00014BG02

担当教員
氏名
◎ 餅原 尚子

ディプロマ・ポリシーとの関連	◎知識・理解 ○汎用的技能 ○態度・志向性
到達目標	病み、悩み、苦悩する人間の「みため（アセスメント）」と「かかわり（心理療法）」について学ぶ。本講義では、人間を理解することの意味、かかわりのありよう（「生きる意味」への心理支援）について臨床心理学の視点から理解するのがねらいである。 1. 「臨床心理学」とは何かを理解することができる。 2. 臨床心理学的アセスメントについて理解することができる。 3. 心理療法について理解することができる。 4. 現代の病理現象（トラウマ、自殺、虐待など）に鑑みつつ、事例等を通して学び、臨床心理学を学ぶ上での倫理やスーパーヴィジョンについて感得することができる。
授業の展開計画	必要に応じて、話題のトピックスを取り上げたり、受講生が積極的に参加できるよう、「やってみよう」方式のアセスメント、討論等を取りあげる。 精神科病院、保健所、学校（スクールカウンセリング、緊急支援、特別支援教育）、被害者・被災者支援、メンタルヘルス（公務員、会社員、支援者等）における心理臨床の実務経験に基づく業務の実際を活かした内容になる。

授業計画表	
回	内容
第1回	臨床心理学とは何か（テキストP1～4） ・臨床心理学にもとめられる人間観（ネガティブ・ケーパビリティとポジティブ・ケーパビリティ） ・発達観
第2回	心理支援と人間観（人間理解と支援に必要な精神的風土）（テキストP4～9） ・教育観 ・臨床観
第3回	臨床心理アセスメント：人間理解の方法（テキストP11～15） ・面接法、観察法、診断基準
第4回	心理検査の意味と背景（テキストP15～18） ・「受ける側」と「する側」のありよう ・テスト・バッテリー（心理検査の種類とその組み合わせ）
第5回	心理療法と3つの治療仮説（テキストP45～48） ・精神分析療法 ・行動療法 ・人間学的心理療法
第6回	・こどもの心理療法（遊戯療法：プレイ・セラピー）（テキストP51～57）

第7回	傷つきやすい人間の心理（1）（テキストP99～103） ・ 自我、自己の拡散と喪失 ・ 自我関与 ・ 自我の強さ ・ 自我同一性拡散
第8回	傷つきやすい人間の心理（2）（テキストP103～104） ・ 自我、自己の拡散と喪失 ・ 自己実現 ・ 自己概念
第9回	情緒障害の心理（テキスト）P109～115 ・ 神経症的不登校 ・ 選択性緘黙
第10回	「いじめ」現象のアセスメントと心理支援（テキストP118～124） ・ いじめ側側の心理 ・ 見て見ぬふりをする側の心理 ・ いじめられている側の心理
第11回	病める人間（テキストP125～139） ・ 心の病気（統合失調症、神経症、心身症） ・ 体の病気（エイズ）
第12回	現代社会と高齢化現象（テキストP140～147） ・ 高齢の意味 ・ 病気や障害のある高齢者
第13回	メンタルヘルスと人間理解（テキストP149～163） ・ 感情労働、共感疲労 ・ 惨事ストレス（CIS） ・ 発達障害の苦悩と周囲の苦悩（カサンドラ症候群）
第14回	事件・事故・災害後の被災者・被害者の心理支援（テキストP165～204） ・ PTSD（心的外傷後ストレス障害） ・ 支援者の傷つき（CIS：惨事ストレスなど） ・ 緊急支援 ・ サイコロジカル・ファースト・エイド（PFA） ・ トラウマ・インフォームド・ケア
第15回	臨床心理学における倫理とスーパーヴィジョン（テキストP205～222） ・ 倫理感覚の涵養 ・ スーパーヴィジョン（生涯続く自己研鑽） ・ 「生きる意味」の確立
履修上の注意事項	守秘義務を遵守すること。 何回でも聴講可（毎年、新しいトピックスを取り上げながら、講義を展開する）。
準備学習（予習・復習等）	シラバスを参照し、講義開始前にその都度、テキストを熟読し、専門用語等を調べておくこと。講義終了後はファイル（ノート）を作成し、いつでも復習できるようにしておくこと。1回の授業に対し4時間程度の時間外学習をすること。
評価方法	到達目標に対して、臨床心理学とは何かを理解し、アセスメントと心理療法について事例を通して感得していることを中心に評価する。「関心・意欲の程度をみる授業への取り組み」（30%）、「臨床心理学についての理解と心理支援についての理解度、定着度をみる学期末の試験」（70%）の総合評価とする。
テキスト	久留一郎・餅原尚子著（2019）『臨床心理学－「生きる意味」の確立と心理支援－』八千代出版（全員購入）
参考文献	恩田彰・伊藤隆二編（1999）『臨床心理学辞典』八千代出版
学修のフィードバック方法	毎回、100字程度の感想文を提出し、その内容に応じて、次回の講義の最初にフィードバックする。
備考	事例等について、「シンク・ペア・シェア」の時間をもつ。



講義名	認知症援助論		
代表ナンバリングコード	00049BG02		
講義開講時期	前期	講義区分	講義
授業方法	対面授業		
単位	2		
単位区分	選		

所属名称	ナンバリングコード
共通科目共通科目	00049BG02

担当教員
氏名
◎ 小楠 範子

ディプロマ・ポリシーとの関連	◎知識・理解 ○態度・志向性
到達目標	認知症がどのような疾患なのか、また認知症をもつ人とその家族がどのような課題に直面しているのかを理解し、自分の立場でどのような支援ができるかを考えることができるようになる。 1. 認知症がどのような疾患なのか説明できる。 2. 認知症をもつ人とその家族がどのような課題に直面しているのか述べることができる。 3. 認知症啓発のために自分に何ができるかを考え、述べることができる。
授業の展開計画	高齢化の進展とともに、認知症と共に生きている人も増加している。この科目は、認知症に対する正しい知識と理解をもち、できる範囲で手助けする人が増えることを願って開講されている。認知症の理解者が一人でも増えることで、認知症があっても住みやすい町づくりにつながっていくことを目指している。授業の展開では、認知症とそのケアについての学習を中心にすすめ、それらの学習内容を踏まえた上で、後半では認知症啓発のため自分の立場でどのようなことができるのかを考えていく。 高齢者ケア施設における看護師としての実務経験による具体的な例をあげながら授業を展開する。

授業計画表	
回	内容
第1回	オリエンテーション
第2回	認知症を引き起こす病気① 認知症とは
第3回	認知症を引き起こす病気② 認知症の原因になる代表的な病気
第4回	認知症をもつ人の困りごと① 認知症が生活に及ぼす影響
第5回	認知症をもつ人の困りごと② 必要な対応
第6回	認知症をもつ人と家族の気持ち① 事例紹介
第7回	認知症をもつ人と家族の気持ち② 事例からの考察
第8回	認知症をもつ人を支える社会システム
第9回	若年性認知症
第10回	認知症をもつ人の尊厳を支えるために
第11回	認知症ケアの歴史
第12回	認知症予防
第13回	認知症啓発のために私にできること① 個人ワーク
第14回	認知症啓発のために私にできること② グループワーク
第15回	まとめ

履修上の注意事項	1. 課題等の提出期限は厳守すること。 2. 疑問や意見等をもち積極的に授業に参加すること。 3. 認知症に関するニュース等に関心をもって、学習内容と関連づけて考えるよう努力すること。 4. 本講義は認知症キャラバンメイトが担当しており、認知症サポーター養成講座も兼ねている。 ・認知症サポーターとなるためには単位を修得することが条件 ・認知症サポーターとは ：認知症について正しく理解し、偏見をもたず、認知症の人や家族を温かく見守ることができる応援者
準備学習（予習・復習等）	・配布した資料は、その日の復習に活用すること。1回の授業に対し4時間程度の時間外学習。 ・予習および復習課題についてはMoodleに提示する。Moodleは授業毎に必ず確認すること。
評価方法	授業の目的・目標に照らし、以下の内容で評価する。 ・学習態度（参加度、授業毎のリフレクション）：30％ ・授業のテーマに応じて出された課題：70％（ルーブリック評価、対象となる課題は授業時に提示する）
テキスト	配布資料あり。
参考文献	・河野和彦(2016)『ぜんぶわかる認知症の事典』成美堂出版 ・日本認知症ケア学会(2022)『改定5版 認知症ケアの基礎』日本認知症ケア学会 ・日本認知症ケア学会(2022)『改定5版 認知症ケアの実践1：総論』日本認知症ケア学会 ・鈴木みずえら編(2018)『パーソン・センタード・ケアでひらく認知症看護の扉』南江堂 他
学修のフィードバック方法	・課題（試験やレポート等）については、フィードバックを行う。 ・ただし、単位認定試験（レポート等）については、予め科目担当者が指定した期限内に申し出のあった学生のみ対応する。
備考	アクティブラーニングの教授法：グループワーク



シラバス 参照

講義名	食べ物と健康		
代表ナンバリングコード	13149BG29		
講義開講時期	後期	講義区分	講義
授業方法	対面授業		
単位	2		
単位区分	選		

所属名称	ナンバリングコード
人間教育学部教育・心理学科	13149BG29
看護栄養学部看護学科	21149BG26

担当教員
氏名
◎ 川野 美智代
松元 圭太郎
喜 美里

ディプロマ・ポリシーとの関連	◎知識・理解 ○汎用的技能
到達目標	本科目では、食べ物と健康に関する様々なテーマについて学び、食べ物と健康の関連について考察し、日常生活に活かすことができるようになることが目的である。 1. 食品の安全性やエビデンス・ベースド・ニュートリションについて、知識を身につけ説明できる。 2. 食事の基本、身体への効果について、知識を身につけ説明できる。 3. 日本・世界の食文化について、知識を深め説明できる。
授業の展開計画	食べ物と健康に関する以下のテーマについて、3人の講師がオムニバスで講義を実施する。食品の安全性やエビデンス・ベースド・ニュートリションについて理解を深め、また、食事作りの基礎・栄養との関りや食文化について学び、日常生活に活かせるようにする。給食委託会社や行政機関の管理栄養士としての実務経験や機能性食品開発の実務経験を活かした講義内容を含む。 1. 食品の安全性、エビデンス・ベースド・ニュートリション 2. 食事の基本、食べ物及ぼす身体への影響 3. 食文化と健康についての関連

授業計画表

回	内容
第1回	オリエンテーション 熱中症の予防（松元）
第2回	食事作りの基本について（喜）
第3回	日本の食文化と他国の食文化（川野）
第4回	食中毒の予防（松元）
第5回	エビデンス・ベースド・ニュートリション（松元）
第6回	季節や体調に合わせた食事（喜）
第7回	食べ物と薬膳（喜）
第8回	腸内細菌叢と健康（喜）
第9回	和食文化の大切さ（川野）
第10回	日本人を支えてきたいろいろな食事の知恵（食材と調理）（川野）
第11回	災害時の食事と健康（川野）
第12回	歴史上英雄の食事から学ぶ養生食（川野）
第13回	「食育」と心身の健康（川野）
第14回	運動と食事の関係（川野）
第15回	まとめ（川野）

履修上の注意事項	特になし
準備学習（予習・復習等）	各コマの内容について、自分なりの課題をみつけて授業に臨み、授業内容についてはポイントをまとめ復習しておく。1回の授業に対し4時間程度の時間外学習。
評価方法	レポート40%、毎回提出の感想30%、授業態度30% 各担当者による15回の平均点で評価
テキスト	適宜紹介、プリント等
参考文献	『現代食文化論』株式会社 建帛社 国立研究開発法人 医薬基盤・健康・栄養研究所 監修（2020）『国民健康・栄養の現状—令和元年年厚生労働省国民健康・栄養調査報告より—』株式会社 南江堂など栄養・食生活関連図書・DVDなど
学修のフィードバック方法	課題（試験やレポート等）については、フィードバックを行う。 ただし、単位認定試験（レポート等）については、予め科目担当者が指定した期限内に申し出のあった学生のみ対応する。
備考	アクティブ・ラーニングの教授法：グループ討議、シンク・ペア・シェア等



講義名	教職論		
代表ナンバリングコード	13137SA02		
講義開講時期	前期	講義区分	講義
授業方法	対面授業		
単位	2		
単位区分	必		

所属名称	ナンバリングコード
人間教育学部教育・心理学科	13137SA02

担当教員
氏名
◎ 島 立久

ディプロマ・ポリシーとの関連	◎知識・理解 ○汎用的技能
到達目標	現代社会における教職の重要性の高まりを背景に、教職の意義、教員の役割・資質能力・職務内容等を身に付け、教育に関連する様々な課題や事例を通して、教職への意欲を高め、さらに適性を判断し進路選択に資する教職の在り方を理解することがねらいである。 1 今日の学校教育や教職の社会的意義、さらには教育の動向を踏まえ、教員に求められる役割や資質能力を理解することができる。 2 職務内容の全体像や教員に課せられる服務上・身分上の義務を理解することができる。 3 学校の担う役割が拡大・多様化する中で、学校が内外の専門家等と連携分担して対応する必要性について理解するとともに、円滑な人間関係を形成することができる。
授業の展開計画	「教育とは何か」という主題について、学生が理論と具体の相互往還を通して理解を深めることができるよう、学校現場での教員及び管理職経験、さらに教育行政経験による教育に関連する様々な事例を活用しながら展開する。受講者にとって身近な場所・職業である学校と教職についての理論的基盤や制度などを客観的に見ることで、その役割と意義を理解し、さらには、そこに潜む問題を正確に捉え、考察へとつなげていく。受講者の興味・関心に沿った内容や時事的なトピックを取り入れるなど、各受講者の学校に対する見解や学校教育体験を生かしながら、学校や教職に関する基礎的な理論・歴史・事象について考察する。

授業計画表	
回	内容
第1回	オリエンテーション・学校教育の今日的課題
第2回	教育の目的・本質
第3回	教育の意義・使命
第4回	教師としての研修
第5回	教師に求められる資質能力
第6回	学校教育の役割～小学校の目標・内容
第7回	教員の採用と任用
第8回	教員採用試験の実際
第9回	学校と教師の一日
第10回	職務内容と校務分掌
第11回	学級経営と授業
第12回	身分と服務
第13回	分限と懲戒
第14回	学校と地域との連携の意義や協働のあり方
第15回	学校教育の今日的課題への対応と危機管理
履修上の注意事項	常に教師としての意識で課題解決を図るように努めること。
準備学習（予習・復習等）	受講生自身の学校教育体験や教職への思いを書いてもらうことがあるため、教職へのイメージを膨らませておくとうい。1回の授業に対し4時間程度の時間外学習。
評価方法	期末試験（教育の動向、教職教養）70%、レポート（教育課題に対する考え、今後の課題）20%、授業への意欲・態度10%
テキスト	テキストは使用しないが、資料を配布する。授業で映像資料（スクールコンプライアンス等）を視聴することもある。
参考文献	授業中に随時紹介する。
学修のフィードバック方法	課題（試験やレポート等）については、フィードバックを行う。 ただし、単位認定試験（レポート等）については、予め科目担当者が指定した期限内に申し出のあった学生のみ対応する。
備考	授業では、アクティブラーニングとしてグループディスカッションを取り入れる。

シラバス参照

シラバス検索 > シラバス参照

印刷する

講義名	教育相談（カウンセリングを含む）の理論と方法		
代表ナンバリングコード	13337SA05		
講義開講時期	前期	講義区分	講義
授業方法	対面授業		
単位	2		
単位区分	必		

所属名称	ナンバリングコード
人間教育学部教育・心理学科	13337SA05

担当教員
氏名
◎ 餅原 尚子

ディプロマ・ポリシーとの関連	◎知識・理解 ○汎用的技能 ○態度・志向性
到達目標	学校における病理現象（不登校・登校拒否、いじめ、トラウマなど）に鑑みて、教師として幼児、児童やその保護者の心理を理解し、教育相談（カウンセリングを含む）の方法を学ぶ。カウンセリングの3つの理論的立場（人間学的心理療法、精神分析療法、行動療法）や治療構造を理解した上で、教育相談の理論と方法と実際のカウンセリングについて学習し、教科教育のみならず、感性を育む教師として成長することがねらいである。 1. カウンセリングの理論と方法を基礎にした教育相談の方法を理解することができる。 2. さまざまな事例に対する教育相談の方法について理解することができる。
授業の展開計画	授業は、事例を交えながら教育相談（カウンセリングを含む）の理論と方法を講義し、その上で、教育相談の事例を通して、特別支援教育、トラウマ（PTSD等）、HIV等を紹介する。最後にまとめとして、カウンセリングの実際のVTRを視聴する。幼稚園、小学校、中学校、高等学校、特別支援学校等におけるスクール・カウンセラー、緊急支援・学校カウンセラーとしての実務経験に基づく業務の実際を活かした内容になる。

授業計画表	
回	内容
第1回	カウンセリングの誕生（テキストP45）
第2回	カウンセリングの3つの理論的立場（テキストP45～48） ・人間学的心理療法 ・精神分析療法 ・行動療法
第3回	教育相談をする側のありよう（テキストP48～51）
第4回	カウンセリングに不可欠な治療構造 ・外的治療構造と内的治療構造 ・「日常」と「非日常」の関係
第5回	アクスラインの8つの原理（テキストP51～57） ・遊戯療法の視点から、児童生徒のカウンセリングを考える ・受容性、共感性 ・制限と禁止（自由と責任）
第6回	親への教育相談（テキストP57～58） カウンセリングの効果の測定（テキストP59～61）
第7回	チーム・アプローチのありよう（テキストP59～65）

第8回	自我を育むカウンセリング ・不登校・登校拒否（テキストP111） ・選択性緘黙（テキストP114～115）
第9回	教育相談の実際 ・心と体の関係～心身症（テキストP131～132）
第10回	教育相談の実際 ・特別支援教育の視点から
第11回	教育相談の実際 ・HIVカウンセリング（性・命の教育）（テキストP136～139）
第12回	教育相談の実際 ・ポスト・トラウマティック・カウンセリング（テキストP169～171、P181～183） ・危機介入・緊急支援（テキストP184～194）
第13回	教育相談の実際 ・VTR視聴①（いじめ） ・人間の尊厳性
第14回	教育相談の実際 ・VTR視聴②（いじめ） ・責任
第15回	教育相談（カウンセリング）の実際 ・VTR視聴（ロジャースの来談者中心療法）
履修上の注意事項	
守秘義務を遵守すること。	
準備学習（予習・復習等）	シラバスを参照し、テキストや配布された資料等を熟読し、専門用語等を調べておくこと。 講義終了後は、ファイル（ノート）を作成し、いつでも復習できるようにしておくこと。 1回の授業に対し4時間程度の時間外学習をすること。
評価方法	到達目標に対して、カウンセリングを基礎にした教育相談について理解できたかどうかの評価の視点になる。評価は、「関心・意欲の程度をみる授業への取り組み」（30%）、「教育相談についての理解度、定着度をみる学期末の試験」（70%）の総合評価とする。
テキスト	久留一郎・餅原尚子著（2019）『臨床心理学-「生きる意味」の確立と心理支援-』八千代出版（全員購入）
参考文献	カーシェンバウムら編（2001）『ロジャーズ選書（上）（下）』岩崎学術出版社 村山正治著（1992）『カウンセリングと教育』ナカニシヤ出版 久留一郎著（2003）『発達心理臨床学』北大路書房 重松清著（2010）『青い鳥』新潮文庫
学修のフィードバック方法	毎回、100字程度の感想文を提出し、その内容に応じて、次回の講義の最初にフィードバックする。
備考	事例等について、「シンク・ペア・シェア」の時間をもつ。

シラバス参照

シラバス検索 > シラバス参照

印刷する

講義名	小児保健概論		
代表ナンバリングコード	13249SF23		
講義開講時期	前期	講義区分	講義
授業方法	対面授業		
単位	2		
単位区分	選		

所属名称	ナンバリングコード
人間教育学部教育・心理学科	13249SF23

担当教員
氏名
◎ 福永 知久

ディプロマ・ポリシーとの関連	◎知識・理解 ○汎用的技能 ○態度・志向性
到達目標	子どもの心と身体の健康を保持・増進するための保健活動について基本的な視点を学ぶ。 1. 子どもの心身の健康増進を図る保健活動の意義を説明できる。 2. 子どもの身体的な発育・発達と保健について説明できる。 3. 子どもの心身の健康状態とその把握の方法について説明できる。 4. 子どもの疾病とその予防法及び多職種間の連携・協働の下での適切な対応について説明できる。
授業の展開計画	子どもの健やかな成長発達と心身の健康を保持・増進するために、乳幼児の基本的な成長発達や健康障害を学習し、適切な保健活動や保育環境について考えていくことができるよう授業を展開する。 保育所・児童発達支援事業所における保育士・幼稚園教諭・看護師としての実務経験による具体的な事例をあげながら授業を展開する。

授業計画表	
回	内容
第1回	ガイダンス、子どもの心身の健康と保健の意義、小児保健統計
第2回	現代社会における子どもの健康に関する現状と課題 子どもの発育発達と保健(1) 多様化する生命の誕生と家族
第3回	子どもの発育発達と保健(2) 乳児期、SIDS
第4回	子どもの発育発達と保健(3) 幼児期、発育発達の評価
第5回	子どもの発育発達と保健(4) 子どもの生理機能の発達と保健、虐待防止
第6回	子どもの健康状態の把握と体調不良時の対応
第7回	子どものかかりやすい疾病概論、健康診断、保護者との情報共有
第8回	慢性疾患や特別な配慮を要する子どもたちへの支援(1) 子どもたちの背景と問題
第9回	慢性疾患や特別な配慮を要する子どもたちへの支援(2) 保育所や学校で必要となる計画
第10回	慢性疾患や特別な配慮を要する子どもたちへの支援(3) 保育所や学校で発症する症状への対応
第11回	慢性疾患や特別な配慮を要する子どもたちへの支援(4) 特定の健康課題と適切な対応
第12回	子どもの心身の健康状態の把握と発育発達の支援(1) ガイダンス、情報収集
第13回	子どもの心身の健康状態の把握と発育発達の支援(2) 内容検討、制作
第14回	子どもの心身の健康状態の把握と発育発達の支援(3) 制作、発表準備

第15回	子どもの心身の健康状態の把握と発育発達の支援(4) 発表会、フィードバック
履修上の注意事項	授業内では、保育者としての丁寧な言葉遣いで話すことができるように心がける。 遅刻や私語などにより授業を妨害する場合は、退室を命じることがある。
準備学習（予習・復習等）	配布資料、参考文献、ノートなどを日頃から見直し、内容を確認・整理しておくこと。 授業で出された課題については自宅学習などを通して積極的に取り組むこと。 1回の授業に対し3時間程度の時間外学習。
評価方法	最終レポート：70%（ルーブリック評価）、授業時の課題および学習態度：30%（ルーブリック評価）で総合評価する。
テキスト	特に指定しない。参考資料はその都度配布する。
参考文献	鈴木美枝子（2019）『これだけはおさえたい！ 保育者のための「子どもの保健」』創成社 厚生労働省（2019）『保育所におけるアレルギー対応ガイドライン』 厚生労働省（2018改訂版）『保育所における感染症対策ガイドライン』 内閣府・文部科学省・厚生労働省等（2016）『教育・保育施設等における事故防止及び事故発生時の対応のためのガイドライン』
学修のフィードバック方法	課題（試験やレポート等）については、フィードバックを行う。 ただし、単位認定試験（レポート等）については、予め科目担当者が指定した期限内に申し出のあった学生のみ対応する。
備考	アクティブ・ラーニングの教授法：問題解決学習、実践演習、グループワーク、ロールプレイング



講義名	日本語教育入門		
代表ナンバリングコード	13181SA30		
講義開講時期	前期	講義区分	講義
授業方法	対面授業		
単位	2		
単位区分	選		

所属名称	ナンバリングコード
人間教育学部教育・心理学科	13181SA30

担当教員	
氏名	
◎ 加藤 理恵	

ディプロマ・ポリシーとの関連	◎知識・理解 ○汎用的技能
到達目標	1 日本国内および世界各地での多様な日本語教育の現状について説明できるようになる。 2 社会の動きに伴って日本語教育のあり方も変化することを説明できるようになる。 3 日本語の音声・音韻の基礎的な知識が説明できるようになる。
授業の展開計画	これから日本語教育を学ぶにあたって日本語教育の目的、現状、社会との関わりに関する基礎的な知識を学ぶ。言語については、後期に開講される「日本語学概論」と合わせて学ぶ。日本語教育現場での日本語教員としての実務経験による事例を取り入れた内容を含む。
授業計画表	
回	内容
第1回	オリエンテーション 日本語教育とは
第2回	日本語の位置 1：日本語と外国語
第3回	日本語の位置 2：絶滅危惧言語
第4回	日本語の位置 3：日本語の種類
第5回	社会・文化・地域 1：日本で学び、働き、生活する人たち（日本で学ぶ人）
第6回	社会・文化・地域 2：日本で学び、働き、生活する人（日本で働く人）
第7回	社会・文化・地域 3：日本で学び、働き生活する人（児童・生徒） 国語教育と日本語教育
第8回	社会・文化・地域 4：諸外国の日本語教育事情
第9回	言語と教育 1：地域の日本語教育
第10回	言語と教育 2：やさしい日本語・学習支援・促進者（ファシリテーター）
第11回	言語と教育 3：異文化間教育 日本語教員の資質・能力
第12回	日本語の音声・音韻 1：音声と音韻
第13回	日本語の音声・音韻 2：日本語の母音と子音
第14回	日本語の音声・音韻 3：日本語の拍
第15回	日本語の音声・音韻 4：日本語のアクセント・イントネーション

履修上の注意事項	講義を中心に進めるが、課題解決活動や発表を行うことがある。学生の積極的・主体的参加を期待する。日本語教育の実際を知るために、薩摩川内市国際交流センター等で行われる日本語学習支援を可能な範囲で行う。日本語学習支援に参加した場合は報告書を提出する。
準備学習（予習・復習等）	予習：課題資料講読 復習：小テスト或いは課題（授業時に提示） 1回の授業に対し4時間程度の時間外学習。
評価方法	中間課題（含ブックレポート）：60% 期末課題：30% 授業参加：10%
テキスト	伊坂淳一(2016)『新ここからはじまる日本語学』ひつじ書房（全員購入） 授業時に提示する。
参考文献	荒川洋平(2016)『日本語教育のスタートライン』スリーエーネットワーク 岡田英夫(2008)『日本語教育能力検定試験に合格するための世界と日本16』アルク
学修のフィードバック方法	課題（試験やレポート等）については、フィードバックを行う。 ただし、単位認定試験（レポート等）については、予め科目担当者が指定した期限内に申し出のあった学生のみ対応する。